

負の存在となり得る地域資源と地域との共存に関する研究  
 ～横須賀海軍施設を有する横須賀市を対象として～

都市空間生成研究室  
 1841131 菫澤 綾乃

地域資源 まちづくり 横須賀市  
 横須賀海軍施設 横須賀市本町商店会 YOKOSUKA NAVY BURGER

1. 研究の背景と目的

近年、都心への一極集中や消滅可能性都市の存在から地域活性化に関する関心が高まってきている。各地域には自然や文化、歴史など様々な地域資源が存在する。その地域資源の中にはその地域の魅力に繋がるものもあれば、そうとは言えないものもあるだろう。その中でも米軍施設は問題が多く、認め合うことが困難な資源と捉えられることが多い。そこで、そういった負の存在となり得る地域資源を有する地域において、その地域資源と地域との共存する関係について考える必要がある。なぜなら、それぞれ違った地域資源を有する各地域にはその地域ならではの魅力があると考えられるためである。

本研究は、負の存在となり得る米軍施設を有する横須賀市を対象地として取り上げ、横須賀市と横須賀海軍施設の関係について、前向きな変化をもたらした要因を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法

本研究は、次の順序で研究を進める。

- ① 横須賀市の地域新聞記事の調査
- ② 横須賀市役所担当者へのヒアリング調査
- ③ ドブ板通り商店街振興組合へのヒアリング調査
- ④ YOKOSUKA NAVY BURGER を販売する店舗へのヒアリング調査

3. 横須賀市と横須賀海軍施設の概要

3-1. 横須賀市の概要

横須賀市は、神奈川県南東に位置し、三浦半島の中心部分を大きく占める都市である。東京湾と相模湾に面し、市域の大半は丘陵地からなるため緑も多く、豊かな自然に恵まれた都市と言える。また、日本で初めての近代的な総合工場である横須賀製鉄所が 1865 年に起工式を行った。ここで培われた技術や文化は、近代日本の発展の礎として日本の近代化をリードした屈指の工業施設と言われている。さらに、1884 年には横須賀鎮守府が設置されたことで発展の大きな契機となり、軍港都市として知られることになる。現在も、日本で唯一、自衛隊の陸

海空軍すべての施設が揃う都市である。

3-2. 横須賀海軍施設の概要

横須賀海軍施設は、横須賀市にある在日アメリカ海軍の基地を示す。旧横須賀海軍工廠、横須賀鎮守府などの日本海軍関連施設を 1945 年に米軍が接收した。現在の所在地は、横須賀本町、稲岡町、楠ヶ浦町、泊町、大滝町であり、土地面積は約 2358670 平方メートルに及ぶ(図 1)。従業員数は約 5,500 人であり、家族等を含め横須賀市内には約 13000 人の米軍関係者が生活している。

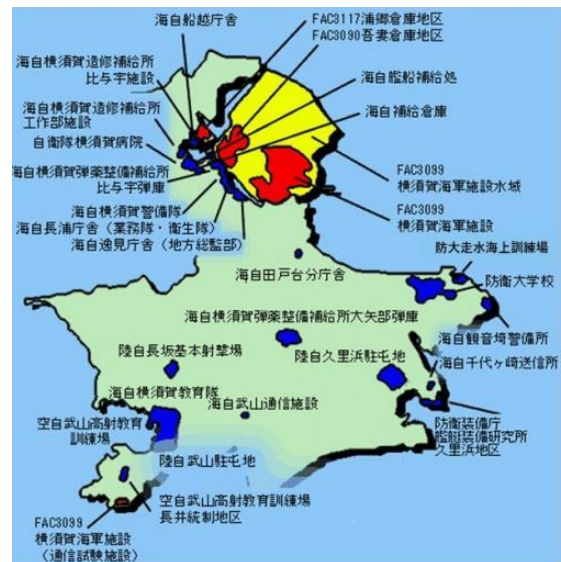


図 1 横須賀市所在米軍施設及び自衛隊主要施設位置図<sup>注1)</sup>

3-3. 横須賀市の特性の考察

横須賀海軍施設の対面に位置する横須賀市本町商店会(通称:ドブ板通り商店街)は、アメリカに最も近い街、アメリカの風薫る街を謳い文句とし、日本とアメリカの雰囲気が融合する特徴的な商店街である。また、横須賀市は、米海軍の前司令官であるダニエル・ウィード氏に日米交流の先進エリアと認識されており、全国の米軍基地を有する都市でも類を見ない日米交流の取り組みが行われている。

このように、横須賀市は、負の存在となり得る地域資源と言える横須賀海軍施設を有する都市だが、この事実

を前向きに捉え、地域レベルでの友好的な関係を築くことで地域の魅力の一つとしている。これは他の地域ではあまり見られない横須賀市の特性であると考えられる。

#### 4. 横須賀市と横須賀海軍施設の関係

##### 4-1. 歴史の変遷

1945年に終戦を迎え、アメリカ連合軍が上陸したことより、米軍による接収がはじまった。上陸日だけでも連合軍による暴行や不祥事が多発したが、GHQによる報道規制を受け、国民にその事実が伝えられることはなかった。その後、横須賀市では米兵向けの土産物店が急増し、商売を通じた日米の交流が生まれた。これは現在の横須賀市本町商店会の原型となっている。しかし、それ以降も米軍に関連する事件は頻発が続き、横須賀市民の安全な生活を脅かした。

##### 4-2. 地域新聞記事の調査・結果

近年における横須賀市と横須賀海軍施設の関係について明らかにするため、横須賀市の地域新聞の記事調査を行った。横須賀市に密着した新聞として広く知られるタウンニュース横須賀版において、「横須賀海軍施設」、「横須賀市本町商店会」に関連する記事について分析を行った。この調査より、YOKOSUKA NAVY BURGER という横須賀三大グルメの一つが、両者の関係に変化をもたらした要因の一つとして考えられるのではないかという結果が得られた。

#### 5. YOKOSUKA NAVY BURGER とステークホルダー

##### 5-1. YOKOSUKA NAVY BURGER の概要

YOKOSUKA NAVY BURGER は、日本海軍の調理法を用いた「よこすか海軍カレー」が10周年を迎えるにあたり、これに倣い、2008年に横須賀海軍施設から友好の象徴として、地元活性化を共同で推進するために米海軍の伝統的なハンバーガーの調理が提供され、このレシピを基に横須賀市が新しいグルメブランドとして展開したものである。現在では、よこすか海軍カレー、翌年にレシピ提供を受けるヨコスカチェリーチーズケーキと並び、横須賀市の三大グルメとして広く知られている。

##### 5-2. ステークホルダーへのヒアリング調査・結果

YOKOSUKA NAVY BURGER について、実態を明らかにするため、ステークホルダーへヒアリング調査を実施した。ヒアリング対象は、YOKOSUKA NAVY BURGER の誕生に関わった横須賀市役所の担当者、YOKOSUKA NAVY BURGER を販売する店舗が多くあり、横須賀海軍施設の対面に位置するドブ板通り商店街の振興組合知事

長、実際に YOKOSUKA NAVY BURGER を販売している店舗である。ヒアリング調査の結果、YOKOSUKA NAVY BURGER を1つの契機として、以前は避けられていた米軍関係のことをPRすること、横須賀市の特徴として観光面で発信することに変化が生じたことが明らかとなった(図2)。両者の関係に前向きな変化を与えた要因の一つであったと考えられる。しかしこれは、YOKOSUKA NAVY BURGER が発売されたことよって、両者の関係を大きく変えたわけではなく、これまでのステーキホルダーが行ってきた、横須賀海軍施設内での教育カリキュラムの設定、日米交流活動などの取り組みや、想いがあったからこそ生まれた関係の変化であった。

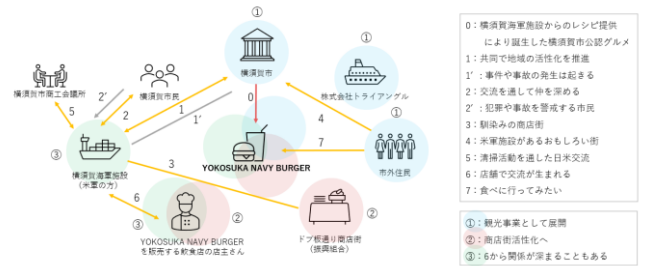


図2 ステークホルダーの構造分析図

#### 6. 結論

これらの調査分析から、負の存在となり得る地域資源を有する横須賀市と、横須賀海軍施設の関係に前向きな変化をもたらす要因の一つとして、YOKOSUKA NAVY BURGER の誕生があったということを明らかにすることが出来た。しかし、YOKOSUKA NAVY BURGER の誕生、存在がすべてではなく、ステークホルダーの方々の想いや、良い方向へと変化を望み行ってきた取り組み、そういった方々の繋がりがあってこそ可能であった、今の両者の関係であるということは改めて示しておきたい。

#### 注

- 1) 出典：横須賀市ホームページ  
横須賀市所在米軍施設及び自衛隊主要施設位置図  
<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/0535/kititai/01/itizu.html>  
(最終閲覧日：2021年1月5日)

#### 参考文献

- 1) 横須賀市編 (1988年)「横須賀市史 下巻」 横須賀市 p.165-170
- 2) 横須賀市編 (2012年)「横須賀市史 別編 軍事」 横須賀市 p.170,714
- 3) 横須賀市 (2015年)「占領下の横須賀 連合軍の上陸とその時代」 横須賀市 p.74-85
- 4) 高村聡史 (2021年)「(軍港都市)横須賀 軍隊と共生する街」 吉川弘文館 p.10-17,266-277
- 5) 横須賀市ホームページ 横須賀市と基地  
<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/0535/kititai/index.html>  
(最終閲覧日：2021年1月5日)
- 6) 横須賀観光情報 ヨコスカグルメ  
<https://www.cocoyoko.net/gourmet/> (最終閲覧日：2021年1月5日)